

人権教育はまず家庭から

「木のお皿」から学ぶ

木のお皿

〔グリム童話より〕

昔、夫婦と老人と四歳になる子、四人が一緒に住んでいました。老人は年をとって、食べ物をこぼし汚すようになりました。そこで、夫婦は老人をテーブルでなく、ものかげで食べさせることにしました。老人は涙をため、ため息をつきましたが、何も言いませんでした。

老人はますます年をとり、手がふるえて不自由になりました。そして陶器の食器をある日落として壊してしまいました。夫婦は、これからも壊されてはかなわないので、老人には粗末な木のお皿をあてがうことにしました。しばらくして四歳の子が、木片を刻んでいるのを夫婦が見つけました。

映させている』ということ

子どもにとって人間関係（人権）を学習する一番最初の場所は家庭です。子どもも「行動」から私たちが気づいて直していかなければならぬような出来事があるかもしれない。

また、おとなが『人を慈しみ、敬い、人権を大切に

する心』を行動に表していることが大切になってきているのかもしれない。

このお話との出会いを、自分の生活を振り返ってみる機会にしてみませんか。

注 グリム童話は、様々な和訳がありますが、本稿では西条市発行の人權ホットメール2005年12月号掲載のものを引用しています。

市人権推進課(教育庁舎1階)
☎ 32・2122
FAX 33・3525
Mail: jinkensushin@city.komatsushima.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (326) 松並敦子・選

百円のオクラ詰め放題ほうだいに挑む人ピラミッド型じどになしてお見事

江田町 深田 伴子

《評》私もこのオクラの詰め放題に挑戦したが、いかにして袋からこぼれないようにするかで精一杯。家計を預かる主婦としては、如何に一つでも多く詰めるかに真剣そのものである。それにしても「ピラミッド型」とは袋の口から高く円錐形にはみ出している形の表現としてすばらしい。ぜひこの技を教えてもらいたいものだ。

駅よりのバス間引かれて3キロの炎天歩いて墓参を終える
横須町 三宅 敏恵

皆同じユニホームなり少年野球一目で分かるは孫という証
立江町 湯浅かや子

われの世と猛暑の中を懸命にわずかな寿命を告げるかに蝉
神田瀬町 大西カヲル

難波行き列車の中は静かなり誰もが黙しスマホを弄る
田浦町 太田カツミ

踊り子の元気なりズム編み笠で顔は見えねどみな阿波美人
中田町 倉橋 正則

初摺れば滝のごと袋に流れゆく色艶の良き豊作の米
赤石町 田原トシ子

大雨も梅雨の晴れ間の炎天も自然の織り成す神の技なり
櫛淵町 松下 玉枝

空襲で第一家を失いし父悄然と帰宅せし日よ
小松島町 川人 豊子

連日のクルーズ客船受け入れる堅固なふところ小松島港
横須町 山崎 泰子